

2009

名城大学環境ガイド

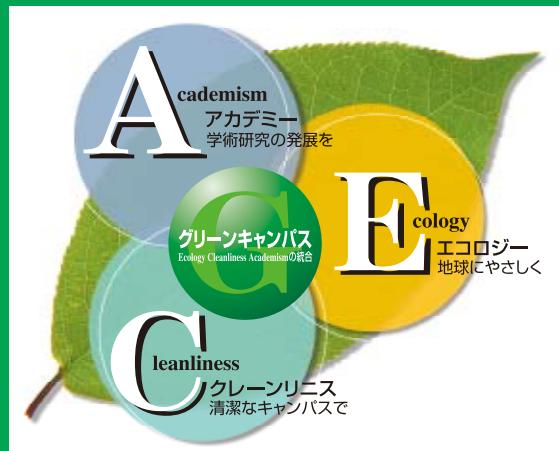
(環境報告書)

グリーンキャンパスの創造に向けて



グリーンキャンパスの創造に向けて

名城大学は、地域のみならず
我が国における教育研究のリーダーとして
「環境の21世紀」にふさわしい
環境を創造するために、持続的に発展可能な
循環型社会と文化の構築に寄与し、
教育研究をはじめとする全ての
活動において、「環境」に配慮した
キャンパス運営に挑戦しています。



index

名城大学の環境マネジメントシステム（EMS）	2
環境方針	2
名城大学環境マネジメントシステム組織図	3
取り組み目的・目標および行動	3
2007年度 環境マネジメントシステムの活動状況	4
廃棄物の分別	5
キャンパス内での廃棄物処理	5
キャンパス外（自宅、地域）での廃棄物処理	7
環境報告書	9
1.省エネルギー	9
2.省資源	9
3.廃棄物排出量	10
4.地球温暖化	10
5.PRTR対象化学物質	10
平成20年度アンケート調査結果	11

名城大学ISO14001フォーラムのあしどり

- 第1回 2001年開学75周年フォーラム
日程:平成13年9月21日(金)
- 第2回 認証取得記念/フォーラム
日程:平成14年12月14日(土)
- 第3回 フォーラム
環境マネジメントシステムの継続的な改善に向けて
—学生・教職員の立場から—
日程:平成15年12月13日(土)
- 第4回 環境マネジメントシステムの継続的な改善に向けて
—認証取得3年を経過して—
特別講演「環境と法」
日程:平成17年4月23日(土)
- 第5回 環境マネジメントシステムの継続的な改善に向けて
—エネルギートーク in 名城大学—
日程:平成18年6月24日(土)
- 第6回 ISO14001フォーラム
—基調報告と映画上映—
日程:平成19年12月8日(土)
- 第7回 ISO14001フォーラム
「地球温暖化問題」
—現在の産業界の取り組みと我々のすべきことは?—
日程:平成20年12月4日(木)



第7回ISO環境フォーラム開催



環境マネジメントシステム(EMS)

2002年6月にISO14001を認証取得し、環境に配慮した教育、研究、経営に向け、その第一歩を踏み出しました。

ISO14001とは、国際標準化機構（ISO [International Organization for Standardization]）が1992年の地球サミットの取り組みに関連し、環境に関する国際的な枠組みを検討する必要を確認し、1996年に発行した環境マネジメントシステム(EMS)に関する国際規格です。

ISO14001は継続的に実施・改善するPlan(計画)、Do(実施)、Check(点検)、Action(見直し)のシステムです。

環境方針

名城大学の環境マネジメントシステムの対象範囲は天白、八事、可児の各キャンパスに附属農場、附属高等学校、日進グラウンドを加えた全キャンパスになります。

名城大学環境方針

● 環境理念

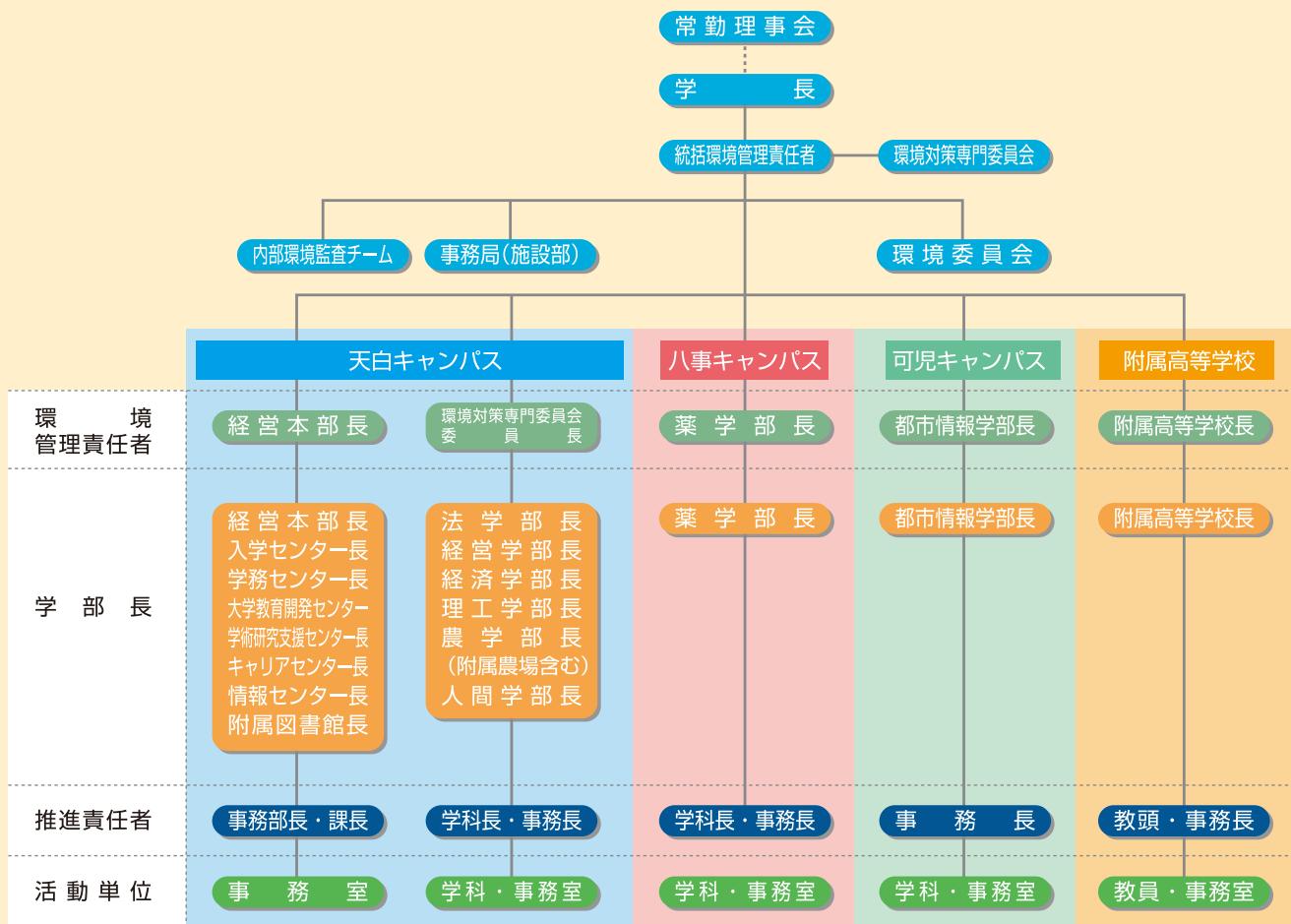
名城大学及び名城大学附属高等学校は、情報化、高度化、国際化する社会の要請と、「環境の21世紀」に応えられる教育研究を推進し、持続的に発展可能な循環型社会の形成に寄与する人材の育成に努めます。

● 環境方針

- ① 地球環境の保全と維持向上に係る教育研究活動を充実し、環境を視野に入れた人材を育成します。
- ② 環境に係る公開講座などの開催や研究成果の公開を推進し、環境保全に貢献します。
- ③ 省資源、省エネルギー、グリーン購入の推進及び廃棄物の減量と適正管理に努め、環境負荷の低減に取り組みます。
- ④ 教育研究をはじめ、総ての活動において、環境関連法規制、協定等を遵守し、汚染の予防に努めます。
- ⑤ 内部監査を実施し、環境マネジメントシステムの継続的な改善を図ります。
- ⑥ 環境方針を達成するため、環境目的、目標を設定し、定期的に見直します。
- ⑦ 環境方針は、インターネットホームページで公開します。

平成19年4月1日
名城大学学長 下山 宏

名城大学環境マネジメントシステム 組織図



環境方針の具体的な行動

環境方針を具体化するための目的及び皆さんができる行動が次の事項です。皆さんに配布した「環境方針カード」の裏面に、"皆さんができる行動"の欄から3つ選択し、記入して下さい。

環境方針カード	目的	皆さんができる行動
	節電	<ul style="list-style-type: none"> 冷暖房の効き過ぎに注意 使用しない時の、教室・研究室・トイレの消灯 使用しない時の、パソコンのスイッチOFF
この中から記入して下さい。	節水	<ul style="list-style-type: none"> 実験や手洗いの時、水のムダ使いに注意
	コピー用紙使用量削減	<ul style="list-style-type: none"> 裏面コピーの利用 両面コピーの推進
自己の環境方針を 環境方針カードに 記入して、学生証とともに 常に携帯してね！	廃棄物の削減	<ul style="list-style-type: none"> 分別の徹底 紙ごみのリサイクル推進 持ち込みごみの持ち帰り徹底
※環境方針カードの裏面は 地震に備えてカードです。	喫煙場所	<ul style="list-style-type: none"> 喫煙は灰皿の設置された場所で

2007年度 環境マネジメントシステムの活動結果

目的	目標	目標値	活動状況
環境に係わる教育活動の推進	環境関連科目の継続的開講	開講率100%	開講要覧や時間割に従って実施し、100%開講しました。
	環境関連教育の充実 ^{*1)}	充実度80%	充実度は65～100%でした。行政機関から講師を招いて環境教育を行った部署もありました。
	環境科目の定期試験受験率の向上 ^{*2)}	受験率90%	前年比10%アップの高い目標を掲げて取組んだが、受験率79～92%は前年と同様の結果であった。
	環境意識調査の実施	実施率50%	実施率は70～82%でした。大半の学生は環境に対する意識や行動が向上しました。
	講義・教科・授業以外の環境教育の実施	各部門で設定	オリエンテーションでの環境教育、デイハイクや学内外清掃活動でごみ分別指導等を実施しました。
	実験科目での環境保全指導の徹底	実施率100%	実験・実習科目では実験手引書に基づき、環境保全の指導や廃液処理の教育を実施しました。
	環境行事への支援	2回／年	全キャンパスで構内外の清掃活動を定期的に実施し、天白14回、八事2回、可児1回、附属高校25回行った。更に地域住民と協力した清掃活動も積極的に実施した。
	大学祭での廃棄物処理の指導	1回／年	大学祭での廃棄物処理の指導と反省会を毎年1回以上実施し、ゴミの減量にも取組んでいます。
	環境フォーラムの開催	1回／年	2007年度は「名城大学環境活動報告」、「地球環境を守るために」のテーマで開催し、多数の学生、教職員及び近隣住民の方が参加しました。
環境に係わる研究活動の推進及び研究成果の公開	公開講演会の積極的開催	各部門で設定	公開講演会を経営、経済、理工、農学の各学部で合計7回開催しました。
	学外公開講座、出前講義、講師派遣の記録	記録継続	経済・人間・農学・都市情報の各学部で学外講演会や出前講義に、合計43名の講師を派遣しました。
省資源の推進	コピー用紙購入量の削減	3%削減	八事・可児キャンパスは減少、附属高校・天白キャンパスは増加。全体では4.5%増加しました。
	水使用量の削減	市水：3%削減	八事キャンパスで7%増加、天白・可児キャンパス及び附属高校は減少、全体では3%削減しました。
	PRTR対象化学物質使用量の削減	1%削減	16%削減しました。前年に続き順調に削減が進んでいます。
省エネルギーの推進	電気使用量の削減	1%削減 20%増加 (キャンパス毎に設定)	再開発工事及び重油から都市ガスへの燃料転換で、全体で7.7%の増加。学生ボランティア協議会等の学生団体による環境、省エネパトロールで積極的に取り組んでいます。
	ガス使用量の削減	1%削減 30～50%増加 (キャンパス毎に設定)	重油から都市ガスへの燃料転換に伴い天白キャンパス53%、八事キャンパス173%に増加、全体では48%増加しました。
	ボイラー燃料（重油・灯油）使用量の削減	1%削減	大気汚染防止や地球温暖化対策のため、燃料を重油から都市ガスに転換し、全体で重油54%削減、灯油21%削減しました。
学部の管理マニュアル	学部ごとの有害物質・環境・安全の管理マニュアル見直し	1回／数年	農学部は予定通り(第5版)発行した。 理工学部(第5版)と薬学部(第3版)は改訂が無かった。
一般廃棄物の適正管理	廃棄量の削減	3%削減	分別の啓蒙活動や環境パトロールでのチェックにより、全体で1%削減しました。
産業廃棄物の適正管理	保有薬品リストの作成	作成率100%	前年度に比べ20%アップの目標で取組み、作成率100%を達成しました。
	実験薬品・材料の購入量の適正化	10%削減	各研究室では購入量と使用量を記録し、適正な購入量の管理に取り組んでいますが、削減には到っておりません。

*1)環境内容を含んだ講義時間数／全講義時間数 *2)受験者数／履修者数



廃棄物の分別

クリーンなキャンパスを自分達の手でつくろう!! そして廃棄物“ゼロ”化を目指します。

キャンパス内の廃棄物

1 廃棄物の分別方法

天白・八事キャンパス

燃やせる物

生ゴミ、木屑、ティッシュ、紙製のトレイ、写真、紙等、及び化学繊維、人工皮革、ゴム製品



燃やせない物

ビニール類、ガラス、カップ麺容器、プラスチック製容器、フロップディスク、ボールペン、ストロー、ペットボトルのキャップ、菓子類包装袋、コンビニの袋



ペットボトル

プラスチック識別マークが下記のように[△]のものに限定。(キャップを取り、中身を洗浄し、つぶす。)



ビン・缶

飲料用ビン・缶類(キャップを取り、中身を洗浄)
スプレー缶(穴を開ける)
薬品ビンは絶対に入れないとください。



紙専用

新聞、雑誌、コピー用紙、講義用プリント、ノート、リーフレット、パンフレット、チラシ、厚紙、封筒(窓付封筒は除く)



可児キャンパス

燃やせる物

生ゴミ、木屑、ティッシュ、紙製のトレイ、写真、感熱紙、剥離紙等、ビニール類、カップ麺容器、ストロー、ペットボトルのキャップ、プリン・インスタント食品の容器、キャンディ・菓子類の包装袋、コンビニの袋、プラスチック製の容器



燃やせない物

ガラス、陶磁器、金物類、プラスチック製の大型ボックス等



ペットボトル

プラスチック識別マークが下記のように[△]のものに限定。(キャップを取り、中身を洗浄し、つぶす。)



ビン・缶

飲料用ビン・缶類(キャップを取り、中身を洗浄)
スプレー缶(穴を開ける)
薬品ビンは絶対に入れないとください。



2 紙類のリサイクル

各号館ホールおよび特定個所に設置された紙専用回収ボックスに入れてください。紙専用回収ボックスには紙以外のものは入れないでください。

リサイクル可能な紙

レシート、新聞、雑誌、コピー用紙の他、授業中に配布されたプリント、厚紙、ハガキ、封筒(セロハン系の窓付き封筒は不可)、チラシ、リーフレット、パンフレット、ノート、紙製のフラットファイル(止め具は除く)、紙製菓子箱(平に広げる)等も可能。

リサイクル不可能な紙

写真、油紙、トレーシングペーパー、紙コップ、粘着テープのついたもの、プラスチック製のファイル、使用済みのチリ紙、クリップ、ビニール・ゼロハン系の袋、タバコの吸殻、牛乳パック(牛乳パックは洗浄し切り開いて、近くのスーパー等に持参)



3 自動販売機紙コップ

学内自動販売機設置個所にはデポジット機(紙コップ回収専用機)が設置されていますのでその中に入れて下さい。

4 産業廃棄物

実験廃液、廃棄実験器具類(ガラス・プラスチック・金属)、実験動物の屍体、注射針等の感染性廃棄物、コンクリートくず、機械系の実習で排出された金属くず、不要什器機器類、体育系クラブ団体の活動用道具等。

	種類と内容物	分別・回収
実験、研究で排出	廃プラスチック類(プラスチック類、ディスポ製品、ゴム製品等、滅菌したプラスチック類)	研究室もしくは廃棄物保管庫で指定したダンボールに保管
	ガラスくず(シャーレー、試験管、陶磁器類、滅菌したガラス類)	研究室もしくは廃棄物保管庫で指定した容器に保管
	廃薬品、廃油、廃液	研究室もしくは廃棄物保管庫で指定した容器に保管
	コンクリートくず、金属くず	指定場所に保管
	薬品びん	研究室にて保管
活動用器具団体	金属物(不用な什器、OA機器等)	各クラブ室で回収日まで保管
	運動系の用具、木製什器、プラスチック系の什器類、イス	各クラブ室で回収日まで保管

*研究室内での排出物は該当教員の指示、クラブ団体での排出物は学務センターの指示に従い絶対に一般の分別ボックスには入れないでください。

5 放置自転車

駐輪場は通学用のために自転車を置く場所です。決して不用な自転車を本学の駐輪場に放置しないでください。
*放置自転車には、原動機付自転車を含みます。

キャンパス外（自宅、地域）での廃棄物

名古屋市の廃棄物の出し方・分け方

資源とごみの分け方・出し方一覧表

保存版

資源 週1回 曜日	ステーション(地域の集積場所)収集	プラスチック製容器包装		資源用指定袋に入れて ^{※1} 注)プラスチック製容器包装だけで一袋にしてください。	資源は、中をさつとゆすいで、それぞれの種類ごとに分けて出してください。
	紙製容器包装		内側にアルミ箔が貼られている箱等 …など	資源用指定袋に入れて ^{※1} 注)紙製容器包装だけで一袋にしてください。	
	ペットボトル		フタを取って (フタはプラスチック製容器包装へ) なるべくぶしして	資源用指定袋に入れて ^{※1} 注)ペットボトルだけで一袋にしてください。	
	空きびん		飲料用・食品用・化粧品用 …	袋へ入れずに直接、 青色のかごへ 注)びんは横にして入れてください。	
	空き缶		飲料用・食品用 千葉、東、北、西、中村、甲、 船橋、墨田、荒川、南、守山、 綾、名古、天白区	資源用指定袋に入れて ^{※1} 注)空き缶だけで一袋にしてください。 中川、浦区	
	紙パック		飲料用に使われた内側が白いもの …	袋へ入れずに直接、 スーパー・区役所などの 回収ボックスへ	
	ペットボトル		フタを取って (フタはプラスチック製容器包装へ) なるべくぶしして	袋へ入れずに直接、 スーパー・コンビニ・区役所などの 回収ボックスへ	
	新聞、雑誌、紙パック 段ボール、古着(夏物)		学区・子ども会などで取り組まれている 集団資源回収や、リサイクルステーション、 古着リサイクルセンターなどを利用しましょう		
ご み	原則として各戸収集 ※2	可燃ごみ 週2回		台所・日用品などの燃えるごみ …	可燃ごみ用指定袋に入れて 注)多量の場合は、事前に 環境事業者へご相談ください。
		不燃ごみ 週1回		30cm角以下の燃えないごみ、燃やすのに適さないごみ …	不燃ごみ用指定袋に入れて 注)多量の場合は、事前に 環境事業者へご相談ください。
		スプレー缶類 週1回		スプレー缶、カセット式ガスボンベ (不燃ごみと一緒にして出してください) …	資源用指定袋に入れて 不燃ごみの収集日に、 不燃ごみと別にして(少し離 して)出してください
		粗大ごみ (有料) 月1回		30cm角を超える大型ごみ …	収集日の1週間前(前の週の同一曜日)までに 愛知県外へ搬出する場合は、 粗大ごみ受け付けセンターへ電話でお申込みください フリーダイヤル 029-248-530 粗大ごみ受け付けセンター 0120-758-530 (受付時間:午前9時~午後5時 [土・日曜日、年末年始を除く]) 搬出地:愛知県外の方は (052) 950-2881(通話料無料) 受付時間:午前9時~午後5時 [土・日曜日、年末年始を除く] 粗大ごみも受け付けています
申込制 ※2				※「粗大ごみ受け付けセンター」へ搬出する場合にしたが、搬出済み店舗(コンビニ、 スーパー等)で販売用シールを購入し、販売用を貼って出してください。 粗大ごみとして排出されたもののうち、軽微な可燃性の車両等の一部につい ては、可燃物のため、燃やれてしまう。 リユース再利用される方へ:手数料(料金)の支払は受け付けません。 ・個人情報保護法に基づき、本件は、ごみの分別のための資源の収集の目的の範囲内に限定します。	資源やごみ の朝、8時 までに決め 出してくだ

- エアコン・ブラウン管式テレビ・電気浴室暖房・電気洗濯機は、「家電リサイクル法」に基づき家電販売店で引き取ります。(市は収集しません)
引っ越し等で購入した販売店が遠方になったり、廃棄している場合は…近くの家電量販店等へ引き取りを依頼するか、指定引取場所へ直接搬入してください。
 - パソコン(プリンタ・スキャナなどの周辺機器を除く)は、「資源有効利用促進法」に基づきパソコンメーカーで引き取ります。(市は収集しません)
自宅で廃棄する場合は、パソコン本体と別途、リサイクル料金を支払う。料金は約2,500円~3,200円。

不法投棄は絶対にやめましょう!

不法投棄の現場を発見された場合は、専用ファックス
フリーダイヤル フォワゴ ニイサ
0120-454-318 か、最寄りの環境事務所まで
(はむきひんじゆふくじゆ)お問い合わせください。

- ①当分の間、販通用指定袋の代わりに、「レジ袋などの透明・半透明袋」もお使いいただけます。
- ②ご自宅で収容します「年末年始の整理は、広場をご利用をお勧めします」

※この写真は、西暦1912年2月1日現在の状況を示すものです。撮影日：2016年3月

■名古屋市ホームページ www.city.nagoya.jp ■市政に関する簡単なお問い合わせは「名古屋おしえ工ダイヤル」でお答えします。☎ 052-953-7584 [営業日・祝日午前9時~午後5時]

可児市の廃棄物の出し方・分け方

可児市
保存版

ごみ・リサイクル資源の分け方・出し方 ごみ出しはマナーを守って住み良い環境

ごみ・リサイクル資源ご不明な点は
可児市役所 環境課
(TEL62-1111)収集日の解、出して下さい。(8時までに)
(由レサイクル資源については収容容器で定めた時期に出して下さい。)

リサイクル資源の出し方 分ければ資源・捨てればごみ、みんなでリサイクルしましょう。(各自治会・アパートの管理者の指示に従って下さい。)

リサイクルステーションに出す資源

●飲食用のビン 出し方 キャップ・フタを取り、軽くゆすいで出して下さい。

■無色のビン



■茶色のビン



■その他色のビン

■生きビン
(一升ビン・ビールビン)

●飲食用のカン 出し方 軽くゆすいでつぶさずに出して下さい。

■アルミカン

■スチールカン
(電子カン・のりカン・ペットフード)

●プラスチック製容器 出し方 洗れてよく洗い落とし出して下さい。

■ペットボトル ◇
(飲料用・酒・底油等のPETに限る)■食品用発泡トレイ、
包装用発泡スチロール

●紙容器・包装紙 出し方 リサイクル用ボックスの様に出して下さい。

紙以外のものは取り除き(出来ないものは燃えるごみとして出す)ひもで十字にしばって出して下さい。



●乾電池・蛍光灯・体温計 出し方 市役所・道徳所等の回収箱に出て下さい。



リサイクルステーションに出せない資源

●家電リサイクル品

エアコン・テレビ・洗濯機・冷蔵庫・冷凍庫



●パソコンリサイクル品

出力 リサイクルマーク
貼られた方法でリサイクルして下さい。
+リサイクルマーク貼
金属類・粗大ごみで出すことができます。

ごみの出し方 各品目ごとに分別し、指定の袋に入れ、住所・氏名を書き指定の集積場に出て下さい。

◆燃えるごみ (可燃物集積場に出て下さい)

生ごみ、紙くず類、布類、ビニール類等



◆燃えないごみ (不燃物集積場に出て下さい)

■金物類 電化製品(家庭用リサイクル品除く)

■プラスチックの誘導

ガラス(カートリッジ類)は出さない
ところへ必ず穴を開けて出して下さい。■ガラス類 コップ、化粧瓶、板ガラス、
耐熱ガラス、白熱電球等

■陶磁器類 瓦、コンクリート破片、皿、茶碗等

ガラスのフタは
取って出して下さい。

◆粗大ごみ (不燃物集積場に出て下さい)

自転車、タンス、布団、下駄箱、学習机、スキーボード等
指定ごみ箱に入らなかった物で、150cm×80cm×60cm
までのものは、粗大シールに住所・氏名を書き見やすい位置
に貼って出して下さい。・自転車、スクーターは、上記の大さ
さを超えていても可です。

◆集積場に出せないごみ (市で収集しません)

■粗大ゴミ(定形外)

【収集収集するもの】
時時 許可業者へ150cm×80cm×60cmを超えるもの
市での許可業者の巡回収集となりますので、直
接お預け下さい。
(品目、量等により
料金は異なります。)

■ささゆりクリーンパークで処理できないごみ(処理困難廃棄物)

★引火性・爆発性のあるもの(プロパンガスボンベ・漆料・バッテリー等)

★医療廃棄物及び医薬品(注射針・感染症の疑いのある廃棄物、防腐剤等)

★鍛錆処理できないもの(鉄骨・白壁漆等のホイル、エンジン付農機具、土蔵類、ホーロー浴槽、ボウリングの玉、電動自転車、家庭用耐火金庫等)

販売店・取扱店・専門の処理業者等に相談して処理して下さい。

■引越し等で一度に多量に出るごみ

指定された収集日に出せない場合は、市の許可業者
に引き取りを相談して下さい。市の許可業者 株式会社 楠本 TEL62-3310
小森産業株式会社 TEL54-1283



環境報告書

1 省エネルギー

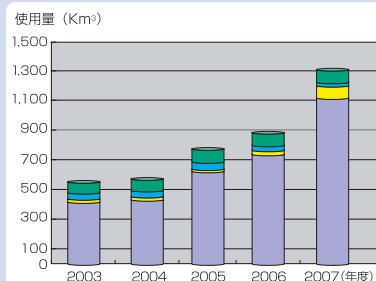
[附属高等学校 ■ 可児キャンパス ■ ハ事キャンパス ■ 附属農場 ■ 天白キャンパス]

1) 電気



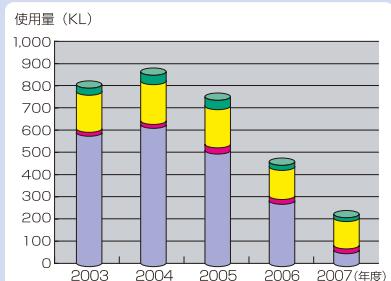
再開発工事及び重油から都市ガスへの燃料転換で、前年比7.7%に増加しました。新校舎の省エネ設計、学生ボランティア協議会等の学生団体による環境・省エネバトルで省エネの向上に努めています。

2) 都市ガス及びプロパンガス



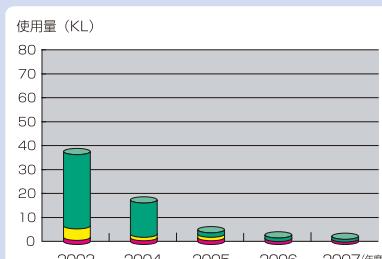
重油から都市ガスへの燃料転換を進めた結果、天白キャンパス、ハ事キャンパスが増加しました。

3) 重油



重油は硫黄酸化物による大気汚染や、CO₂による地球温暖化の影響が大きいので、重油から都市ガスへ燃料転換をしました。

4) 灯油



灯油は灯油ボイラーの廃止や使用回数の減少で、削減しました。

5) 総エネルギー使用量(原油換算)

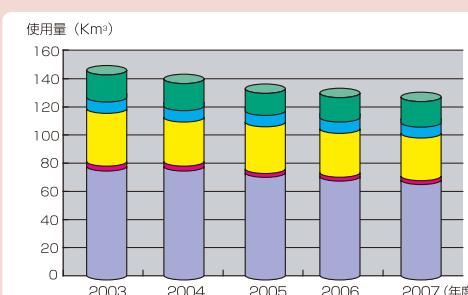


'07年度は、天白キャンパスの再開発工事での研究実験棟Iの竣工、ハ事キャンパスの再開発工事等で、天白・ハ事両キャンパスの増加率が大きかった。

なお、総エネルギー使用量の評価尺度としてCO₂排出量がありますが、CO₂排出量は電気、ガス等の他に、水道使用量、廃棄物発生量や自動車用ガソリン使用量を含みます。

2 省資源

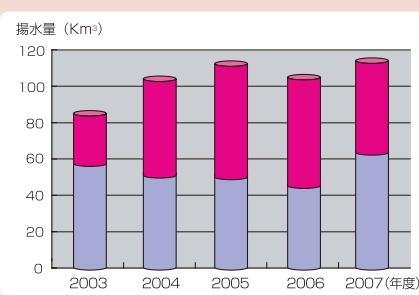
1) 市水の使用量



冷却水の循環使用の推進、漏水チェック体制の確立、節水活動等の効果により毎年減少しています。



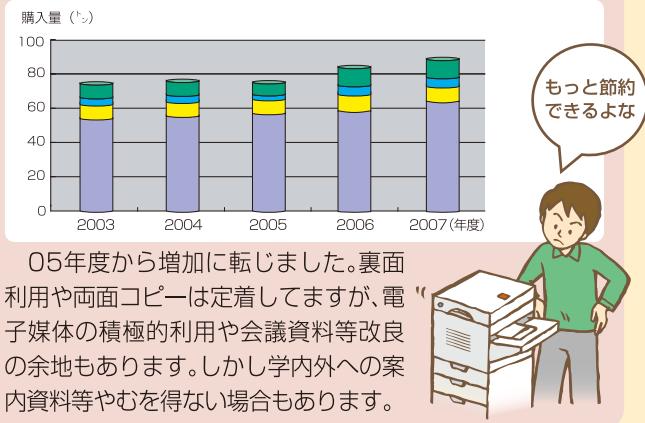
2) 地下水揚水量



天白キャンパスの再開発工事で、研究実験棟Iの竣工に伴ない揚水量が増加しました。



3) コピー用紙(PPC用紙)の購入量



05年度から増加に転じました。裏面利用や両面コピーは定着していますが、電子媒体の積極的利用や会議資料等改良の余地もあります。しかし学内外への案内資料等やむを得ない場合もあります。



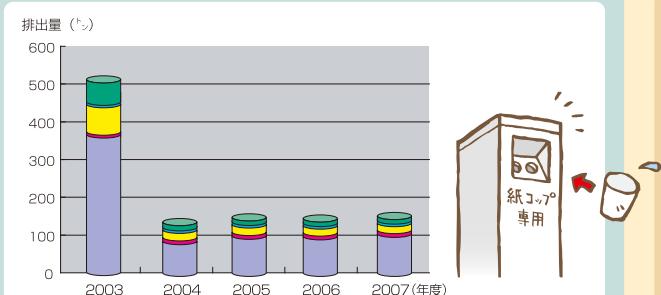
4) 紙類のリサイクル



リサイクル率はほぼ100%です。各所に「紙専用回収ボックス」を設置し、更に「環境パトロール」でゴミ箱に紙類が捨てられていないことを確認しています。

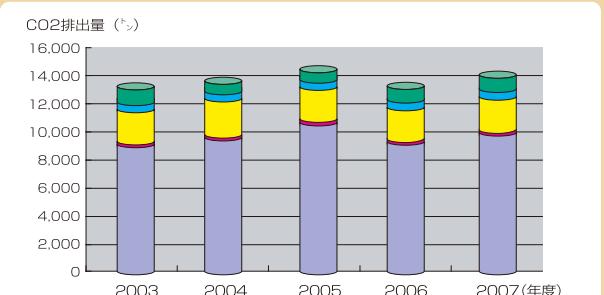


3 一般廃棄物排出量



各所に「分別容器」を設置し、「環境パトロール」で中身をチェックしています。

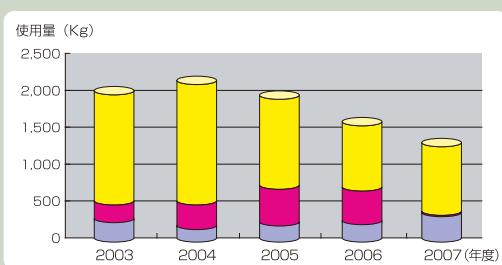
4 地球温暖化



天白・八事両キャンパスの再開発工事と、重油から都市ガスへの燃料転換で、電力と都市ガスの使用量が増加しました。尚、同じ発熱量では重油より都市ガスの方がCO₂発生量が少なくなります。

5 PRTR対象化学物質

使用量の推移



PRTR対象化学物質の毎年1%削減を目指していますが、05年度以降は使用量が大幅に減少しております。



【省エネ対象項目と削減目標】

省エネ対象項目	電気	気体燃料		液体燃料		市水	井水	コピー用紙	一般廃棄物
		都市ガス	LPG	重油	灯油				
2007年度の削減目標値**	1% 削減	30~50% 増加	1% 削減	1% 削減	1% 削減	3% 削減	1% 削減	3% 削減	3% 削減

※削減目標はキャンパスにより異なります。



平成20年度アンケート調査結果

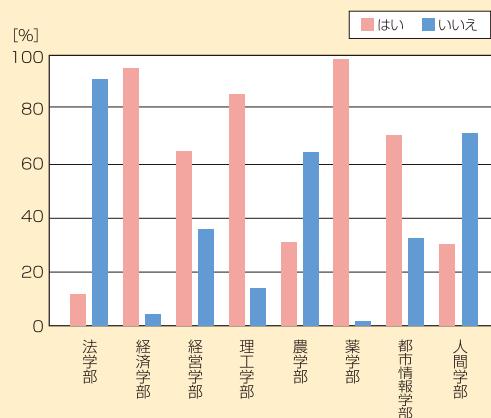
平成16年6月にISO14001認証取得を機に、理工・農・薬の3学部で環境関連科目を受講している学生を対象にアンケート調査を実施し、さらに平成18年度からは全学部の環境関連科目を受講している学生を対象に調査を実施した。平成20年度はアンケート項目も見直し全学部の学生(環境関連科目受講者に限らず)にアンケート調査を実施した。なお、アンケート調査数が多い学部については調査数を抽出した。

法学部	経済学部	経営学部	理工学部	農学部	薬学部	都市情報学部	人間学部	計
242	95	160	1,519 (2,926)	439 (704)	195	125	187	2,964

1 環境について

図-1は学部別環境関連科目的受講率を示したものである。平成20年度において受講率を調べたところ、総じて受講したと答えた学生は1,963名、全体の66.2%を占めた。各学部には大きく格差が見受けられるが、これらは理系・文系の違い、学部の環境に対する意識の差異、といったもので必ずしも説明されるわけではない。また学部を問わず、具体的な講義については、“環境”というキーワードを名称に含む科目が多く挙げられていた。実質的に環境に関連する内容であっても、学生が環境関連科目として認識しなかったものも少なからずあるのではないだろうか。さらに、受講率が高い学部においても質的な差が見受けられ、例えば経済学部ではほぼある1つの講義のみが挙げられ、薬学部・理工学部は多様な環境関連科目が挙げられている。

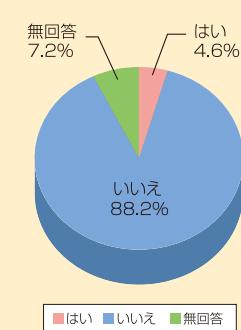
■ 図-1 学部別環境関連科目的受講率



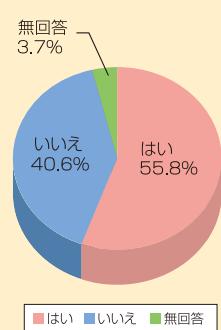
2 ISO14001について

図-2はISO14001フォーラムの参加状況を示したものである。平成20年12月4日に本学では第7回ISO14001フォーラムが開催され、学生の他、一般市民や教職員合わせて450人が参加した。今回のテーマは「地球温暖化問題—現在の産業界の取り組みと我々のすべきことは?」であり、日本経団連の岩間芳仁氏が「地球温暖化問題と産業界の役割」と題し講演され、続いて本学の教職員と学生を交えたパネルディスカッションが催され、盛況の内に幕を閉じた。2001年から毎年開催されている同フォーラムであるが、ここでは学生へ参加しているか否かを尋ね、アンケート対象の学生の5割近くが1年生であったせいか、参加したことがないとの回答が9割近くに上っていた。入学時のオリエンテーションや環境ガイド(環境報告書)などの広報手段を活用しさらに認知度を高める工夫、また、都市情報学部などのキャンパスから学生を組織的に誘導する仕組み作りなども検討する必要があると思われる。

■ 図-2 ISO14001フォーラムの参加状況



■ 図-3 ISO14001認証取得の周知度



■ 図-4 環境方針の周知度

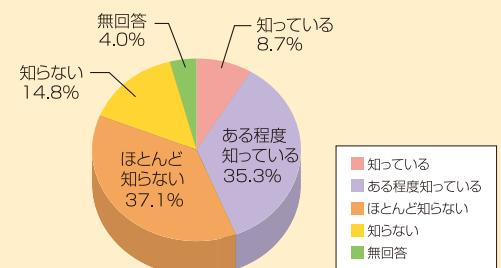


図-3は、名城大学がISO14001を認証取得していることを知っているか否かを尋ねた結果を示したものである。「知っている」と答えた学生の割合は、前年度65.0%から約10%減少している。

また、図-4は「大学の環境方針を知っていますか?」という周知度の質問に対する答えの割合を示している。「知っている」と「ある程度知っている」という答えを合わせると44%になる。

図-5は学生の環境意識と行動について示したものである。①新入時のオリエンテーションで配布した「環境ガイド」を読んだかどうか、②「環境方針カード」を常時携帯しているかどうか、③環境に係る公開講演会に出席したかどうかという質問に「はい」と答えた学生の割合を示したものである。①は39.7%、②については22.0%、③については4%であった。①、②については昨年結果より減少している。

図-6は、「ISO14001認証取得を何で知りましたか」という質問に対する回答を示したものである。昨年と比べると、「講義」と「大学からの配布資料」の順位が入れ替わっただけで、あの順位は同じである。本年度の数値は「入学時のオリエンテーション(ガイダンス)」の割合が46.6%と増加している(昨年度は40.2%)。「講義」は28.8%(昨年度は30.3%)、「大学からの配布資料」は30.2%(昨年度は28.8%)であった。認証取得を知ったきっかけのほとんどはこの3つの媒体である。

3 学生の環境意識・行動について

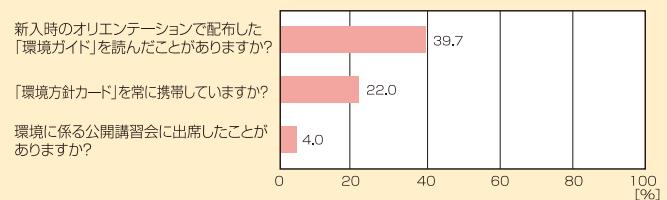
図-7は、学生の環境意識の変化を示したものである。「変わった」「少し変わった」の昨年度の総計は38.8%であり、本年度は47.6%と增加了。これを学部別に示したものが図-8である。これにより「変わった」「少し変わった」を合わせて農学部、経済学部、薬学部の学生の環境意識が高く、都市情報学部、理工学部、経営学部の学生の環境意識は低くなっている。

図-9は学生の環境行動について示したものである。「節水・教室内外にゴミを放置しないこと」「ゴミ分別ボックスの利用」「紙回収ボックスの活用」等については、かなりの程度浸透していることが確認できるが、「未使用教室・研究室の消灯」「未使用的パソコン等の電源OFF」といった一步踏み込んだ形での取り組みについては低調な結果である。なお、「教室内外で放置されたゴミ」への対応については、そのほとんどが「そのままにしておく」との結果である。

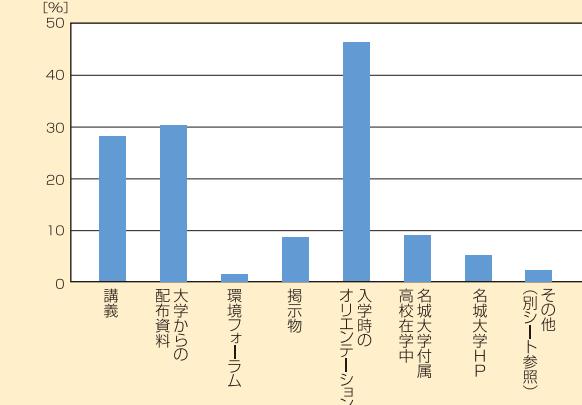
図-10及び図-11は学生のレジ袋の購入・購入後の再利用について示したものである。レジ袋の購入については、ほとんどの学生が購入しないと考えており、購入したレジ袋については、「保存して再利用する」学生の割合が約3分の一とあまり再利用もされていないとの結果である。教室内外のゴミが散乱している現状の中で、レジ袋のゴミ袋としてのリユース(再利用)を強く意識した上で、ゴミ放置とレジ袋有料化との間に相関が認められるのであれば、ゴミ放置とレジ袋有料化については、一括りのものとして考えることもできる。

図-12はレジ袋をエコパックに切り替えへの賛否について示したものである。レジ袋の代替としてのエコパック(有料)については、その存在が、かなりの程度、認知されてはいるものの、その意義については多くが様子見であるとの結果である。レジ袋(無料)のリユースといった観点から、こうした結果も肯定されうるのであろう。

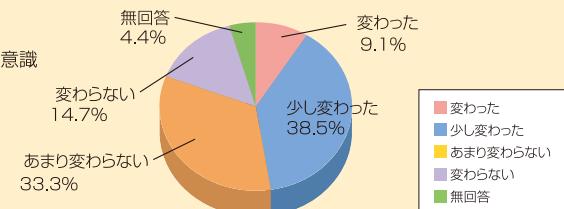
■ 図-5 環境意識と行動の変化



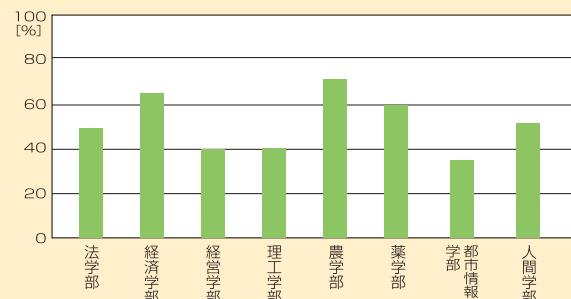
■ 図-6 ISO14001認証取得を知った媒体



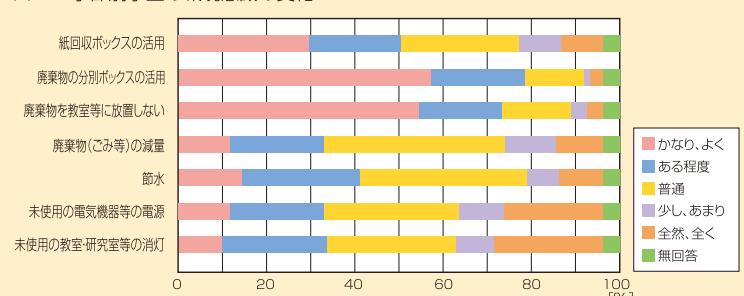
■ 図-7
学生の環境意識の変化



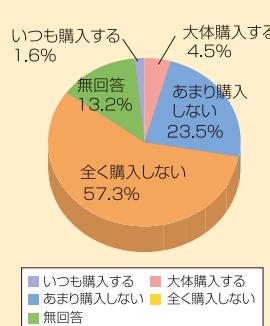
■ 図-8 学部別学生の環境意識の変化



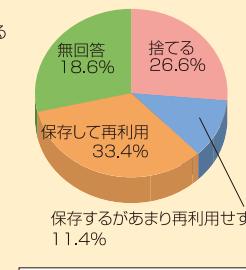
■ 図-9 学部別学生の環境意識の変化



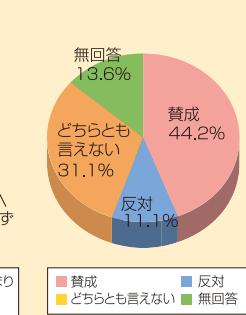
■ 図-10
レジ袋購入状況



■ 図-11 購入後のレジ袋再利用状況



■ 図-12 レジ袋からエコパック切替えの賛否



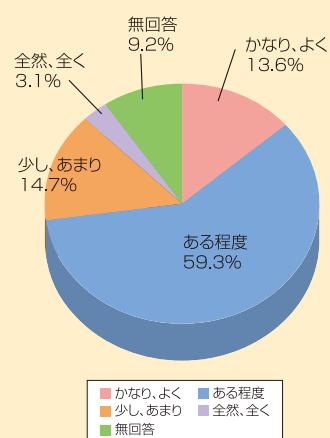
4 環境問題について

図13～15は環境問題への関心度、地域ゴミ分別ルールの周知度、自宅でのごみ分別度について示したものである。地域のゴミ分別の環境問題およびゴミ分別に関する集計する限り、「かなり、よく」と「ある程度、大体」が合計でおおよそ75%を占め、関心はかなり高いと言うことができる。

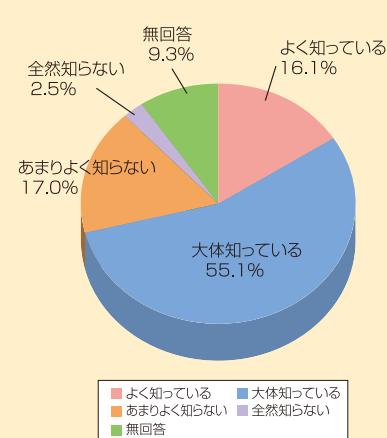
図16は環境意識に対する自己採点について示したものである。環境意識に対する自己採点でも、過半数が「普通」としており、その普通であることの自覚は適切とも言える。ただ自身でゴミ分別をしっかり行っているかに関しては、「分別している」と「大体分別している」がおおよそ同率であり、ゴミ分別の徹底が望まれる。

図17は環境に関わるキーワードにおける関心度について示したものである。環境関連キーワードへの関心を問うたが、「発展途上国の大害」および「地球温暖化」への関心が突出して高い。これら以外のキーワードへの関心はおおむね平均的であるように考えられる。ただ環境対策の国際的枠組みであるCOP10およびIPCCについては非常に関心が低い。学生の立場からすれば、自身の手に届きにくい「雲の上」の話であり、身近な問題としては認識しにくい部分があるのだろう。

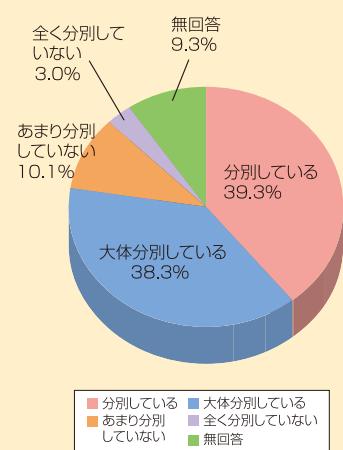
■図-13 環境問題への関心度



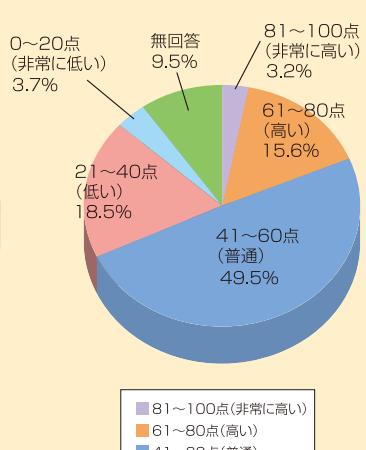
■図-14 地域ゴミ分別ルールの周知度



■図-15 自宅でのゴミ分別度



■図-16 環境意識への自己採点



■図-17 環境に関わるキーワードにおける関心度

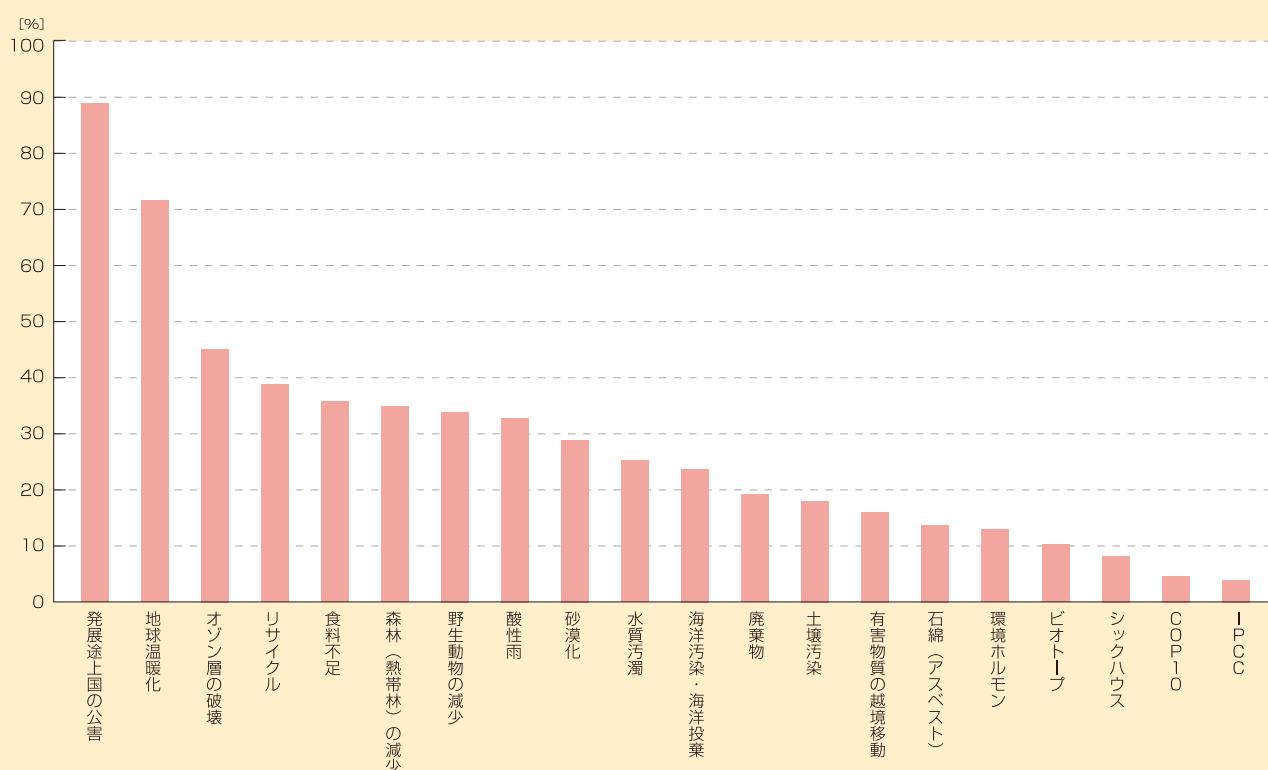
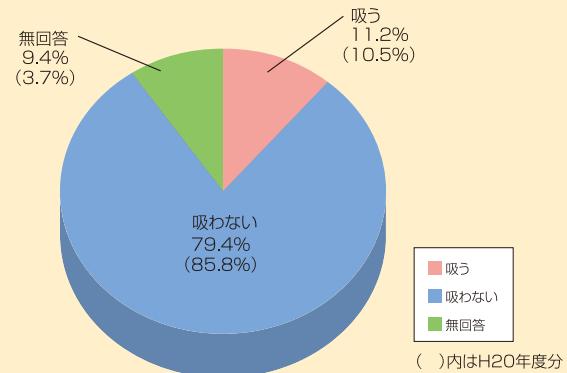


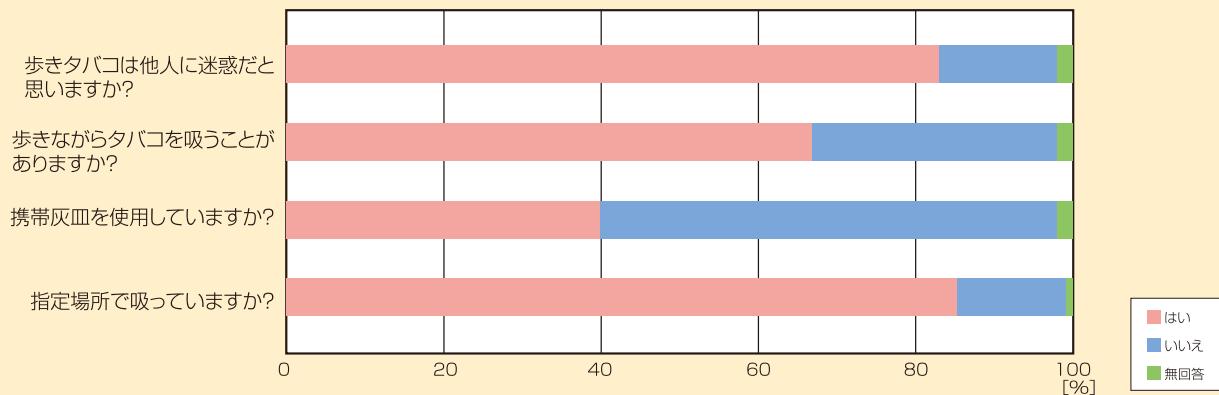
図-18は学生の喫煙率を示したものである。学生の喫煙率は11.2%と前年度に比べ若干増えたが、非喫煙者は79.4%と圧倒的に多い。

図-19は喫煙者の喫煙場所、携帯灰皿の使用、歩行喫煙の有無、歩行喫煙は迷惑か否かについて示したものである。これによると、指定場所で喫煙している学生は前年度調査に比べ変化なく、歩行喫煙をしている学生は若干減少している。歩行喫煙の迷惑行為の認知度は高まっているが、携帯灰皿の使用率はやや減少している。

■図-18 学生の喫煙率



■図-19 学生の喫煙状況



まとめ

大学の環境教育や環境取り組みにより学生達の環境意識自体は良い方向へ変化しつつあっても、実際の環境行動においては前年に比べて大きな変化は見られなかった。今後は、環境意識教育を含め、学生達が節水や節電、ごみ分別、歩きタバコの自粛などが実際の学内生活で実践できるように、教職員によるきめ細かい環境指導が求められている。

○環境意識

大学の環境方針、ISO14001認証取得、クリーンアップ大作戦などに対する学生の認知度は、いずれも高かった。また、「あなたの環境に対する行動や意識は変わりましたか」という質問に「変わった」9.0%、「少し変わった」38.5%と答えた。これは、昨年度の4.6%、34.2%、そして一昨年度の4.6%、30.0%に比べて、徐々にではあるが学生達の環境意識が良い方向に向かっているといえる。

しかし、アンケート調査結果に現れているように、学内で日頃、「未使用的教室・研究室等の消灯」、「廃棄物を教室等に放置しない」、「廃棄物の分別ボックスの活用」、「節水」、「歩きタバコ自粛」などを行っているかについての答えは、前年並みであるか項目によっては前年を下回る結果となっている。

○環境問題への関心度

学生達の環境問題への関心度はおよそ75%と高い水準を示している。しかし環境意識に対する自己評価は、「非常に高い」と「高い」は全体の18.8%に過ぎなく、厳しいほうであった。環境に関わるキーワードで関心のあるものについては、昨年度に23%に過ぎなかつた「発展途上国の公害」が今年度に89.1%と最も高くなっている。その要因として、ここ1年間中国などからの土壤汚染や猛毒物質などによる食の安全性が大きな社会問題になったことがあげられる。また依然として「地球温暖化問題」(70.9%)、「野生動物の減少」(33.8%)などの地球規模的な環境問題に対する関心度は高いが、これらの問題に深く関わっている「IPCC」(3.9%)、「COP10」(4.3%)についての関心度はかなり低かった。大学としては学生達の環境関心度に答えられる、より専門的な知識の提供が求められている。

○喫 煙

アンケート調査対象学生の喫煙率は11.2%であり、昨年度と一昨年度の10.5%、11%とあまり変わっていない。喫煙学生の中で歩きタバコが迷惑だと思いながらも(82.5%)、実際経験のあった学生は67.5%に達している。アンケートに答えた学生達は、学校が取り組んでほしい環境問題の中で、歩きタバコの徹底的な取り締まりと建物入り口付近の禁煙が最も多かった。教育機関として喫煙マナー指導問題、学内での全面禁煙問題などについて、より幅広い議論が求められている。



Environment Guide of
Meijo University

2009名城大学環境ガイド

発 行 / 名城大学 経営本部 施設部
住 所 / 〒468-8502 名古屋市天白区塩釜口1-501
T E L / 代表 052-832-1151(内線2169、2091)
ダイヤルイン 052-838-2011
F A X / 052-833-5523
U R L / <http://www.meijo-u.ac.jp/>
E-Mail / ookankyo@ccmails.meijo-u.ac.jp